

## 目 次

天への道を示して.....	1
癒しについて.....	6
見えるところでなく.....	11
必ず解決のある人生.....	15
キャメラル?? チャラメラ??.....	17
高級新品.....	20
春が来た.....	22
アメリカで見聞きしたこと.....	23
人間関係について (1) .....	27
人間関係について (2) .....	29
人間関係について (3) .....	31
人間関係について (4) .....	34
人間関係について (5) .....	37

## 天への道を示して

私たちがアメリカに来て十五年近くなりますが、その間にいろんなことがありました。神様は日本においてもアメリカにおいてもいろんな体験を私たちに与えてくださいました。その中でも、病気の人々、特に死の前にした人々へのアプローチについて、アメリカで体験した事を記してみたいと思いました。ここに記す人々は女性ですので、主人よりも私のほうが、より近くで関わることになりました。

### M子さんのこと

最初の人はM子さんという方でした。アメリカ人のクリスチャンの御婦人から、M子さんを主に導いてほしいと依頼を受けました。私たちが、この方を病院に訪ねた時、彼女はもう、死が近いのだと聞かされまし

た。いきなり福音を語ることも出来ないので、まず自己紹介やら、ありきたりの挨拶やらをしました。いろんな語らいの中で、M子さんの日本の家族が新興宗教に入っていて、彼女もその影響を受けていることがわかりました。でも、この方は心の柔かい方だと思わされました。

しばらくして、私たちが帰ろうとした時、親身になってM子さんの面倒を見ておられた、アメリカ人の御婦人が「M子さんはイエスを信じましたか」と聞きました。私たちは「一回では無理です。それに、彼女には違う宗教の影響があります。」と答えました。「祈り続けます。」とその方は答えました。

二回目には、M子さんに福音を語る事ができました。M子さんは、こちらがびつくりするほど素直に、熱心に福音に耳を傾けてくれました。その時、私の心の中にかんりの葛藤がありました。「今、決心に導くべきか？ 早すぎるか？」ということでした。「二回の訪問

では早すぎるかもしれない……」という思いと、「もし、この次に来る時まで、この人の命がもたないとしたら……」という思いと、心の中で戦いがありました。私は、心の中で必死に祈ってから、思い切つて「M子さん、イエスさまを信じますか」とききました。Mさんは、「はい」と、はつきりした声で答えました。「それでは一緒に祈りましょう。私の後について祈ってください。」と言つて私が祈ると、彼女は私の後について祈りました。自分が、神を信じない罪人であつたこと、その事を悔い改めて、イエスさまの十字架の救いを信じます。という祈りでした。この魂は救われました。そして、聖書のみ言葉と、賛美の歌を、彼女は大喜びしました。

その後で私は、風邪をひいて訪問できなくなりましたので、教会の二人の姉妹が代わつて行つてくれました。訪問から帰つてきた二人の姉妹は、「Mさんはとても輝いていましたよ。救われて、うれしくてたまらない。といったすばらしい表情をしてましたよ。」と

報告してくれました。風邪が治つたので、三回目に私が訪ねようと思つていた、その前日にMさんは天に召されました。アメリカ人のクリスチャンの御婦人は、死の床にあつた孤独な日本人を、親身になつて世話をし、助け、祈つてくださったのです。神様はこの方の愛の労と、その人に「魂の救い」という永続する真の幸いを与えたいとの、真心からの祈りに答えて、三子さんを救つてくださったのだと思ひました。私は、そのかたの愛のお働きにお手伝い出来たことをうれしく思ひました。

#### Y子さんのこと

次の方は、Yさんといつて、私たちの家の近くのアパートに住んでいました。ここでも、アメリカ人のカトリック信徒の方が、Yさんをお世話してくださいました。（もちろん先の方と同じようにあくまでも無償の愛の奉仕でした。）ご主人や、まだ小さい

お子さん達を家に置いて、ずっと付き添ってくれていました。

Y子さんは、末期の癌でしたが、テレビ伝道者の間違った教えを信じて、自分は死ぬことはないから、と病院に行くことを拒んでいました。それについて、私たちがいろいろ説明して、その間違いに気づかせてあげようとしたのですが、短い時間では無理なようでした。私たちがみことばを語り、賛美を歌ってあげると大変喜びましたが、この方は二日後に亡くなりました。この次には、日本語のメッセージのテープと、賛美歌のテープをもってきてあげます」と言った約束は果たせずにしまいました。

カトリック信徒の方が、危篤のY子さんを救急車で病院に運んだのですが、まもなく亡くなったようでした。まだお才でした。私は、死後の時間ぐらいたった彼女に会いました。朝の5時頃でした。死んだ人の手は、本当に冷たいでした。主人が司式して、私が奏楽をし

て家族と、僅かな友人だけの小さなお葬式をしてあげましたが、もっと早く、このようなとても気の毒な（病気だけでなく、家庭的にもその他にも不幸を抱えていたとききました。）、孤独な日本人に届くことができたら……とたいへん悔やまれました。

丁子さんのこと

三人目は、丁子さんといいました。この人も重病でしたが、とても性格の強い人で、かなりの痛みを抱えながら時々教会に来ていました。クリスチャンの親切に心を動かして、すこしずつ主に心を向けるようになりましたが、私は、この方が末期の癌で先が長くないと聞きましたので、まだ大丈夫な内に、はつきりした信仰告白に導きたいと、祈っていました。この人も、先のお二人と同じように、辛い、孤独な人生を歩んで来た方で、心に深い傷を持っていました。最初は、人間の親切には心を開いても、神の愛に対してはかたくなな

「試し読み」はここまでです。

お気に入りでしたら

ご注文ください。



Penguin Club  
[www.penguinclub.net](http://www.penguinclub.net)